

「第二の人生」のスタートにあたり

冒頭から個人的な話で恐縮ですが、38年間務めた高校を昨年度末に退職し、2025年度は「第二の人生」のスタートの年となりました。週2回の大学非常勤講師とともに、日常生活の中核を占めるのが特定非営利活動法人サロン2002です。ライフワークと言ってもいい、これからもおそらくずっと続くであろう、つながりであり活動です。

1980年代末からの、日本サッカー協会科学研究委員会（当時）のサブグループ「社心グループ」が前身です。社会学や心理学に関心を持つ若手サッカー研究者・指導者の研究会でした。1990年代に入ること、Jリーグ発足と2002年FIFAワールドカップ招致という大きなできごととともに日本のサッカー界、スポーツ界が動き出し、私たちの研究会は1997年度より「サロン2002」と改名し、月例サロン（月例会）を毎月開くようになりました。2014年度にNPO法人化し、“志”の実現につながる事業を主催します。12月の公開シンポジウムが、月例サロンとしては通算350回となり、主催するU-18フットサルリーグチャンピオンズカップは今年度で第10回大会となりました。

本報告書に掲載される二つのシンポジウムと9月の公開サロンは、いずれも「第二の人生」について考えさせられるものでした。

11月の公開シンポジウム①のテーマ「ユース年代のサッカー」は、サロン2002が始まった1997年度にJFAnewsで連載していた「ユース年代のサッカーはいま！」がベースにあります。当時の「ユース年代のサッカー」の現状と課題をあぶり出し、さまざまな提案を試みました。現職教員として抱いていた問題意識が出発点です。公開シンポジウム①は、2025年度のいま、それがどうなったのかを検証する場となりました。主にU-18男子のサッカー、フットサルを中心に、スポーツ界の先端に行くサッカー界が直面するテーマに向き合うシンポジウムであり、若いころの問題意識の「答え合わせ」でもありました。

12月の公開シンポジウム②は「賀川浩さんを語ろう」です。99歳11か月で2024年12月に亡くなられたFIFA会長賞受賞ジャーナリストの功績を再確認し、その人となり、さまざまな方が語るものでした。戦争を経験された賀川浩さんからは多くのことを学ばせていただきました。「生きること」を改めて考える機会にもなりました。

公開シンポジウム報告書である本誌に、あえて9月の公開サロン「イングランドに行ってきました一部活指導がなくなった元高校体育教師の夏休み」を掲載しました。「第二の人生」を歩み始めた今夏、近代スポーツ発祥の地、英国を初訪問した旅行記です。本務とサッカー活動に明け暮れた現職教師時代を振り返りつつ、自由時間を謳歌できました。

改めて思います。私たちの“志”である「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」は、すべての年代にとって大切なことなのだ。本報告書を手にとって、“ゆたかなくらし”を自分自身にあてはめて考えていただければ幸いです。

2026年3月6日

特定非営利活動法人サロン2002

理事長 中塚義実

